

## 論文の和文要旨

論文題目	ミュージアムを巡る環境変化において美術専門家に必要なスキルとトレーニング - 英国の事例 -
氏名	林 葳 (りんうえい)

本研究では英国の美術館を支える美術専門家（館長と学芸員）に着目し、外部環境が変化する中で、必要なスキルがどう変化し、それに対して大学や美術館はどのような教育や訓練を施しているかの分析を試みた。英国の博物館学系大学の教育内容や英国の大型美術館（政府助成美術館）の職員研修内容を取り寄せると共に、学芸員への個別調査により、その全体像の把握に努めた。

国際博物館協会が設定したスキル概念である **Curricula Guidelines for Museum Professional Development** 等を参考としたスキル開発概念を元に研究を行った。スキルに関する主な発見としては、伝統的な学芸員スキルをさらに深めるのが重要という意見と、伝統的な学芸員スキル・美術館の多機能スキル・経営・リーダーシップスキルの全てが重要という意見に分かれた。英国特有のスキルや所属美術館特有のスキルに関しては、英国や所蔵コレクションに関する専門性の深さという事が判明した。

教育・訓練に関する主な発見としては、入館前の教育・訓練はインターンシップ以外は全て大学教育によって行われている。また、レスター大学等以外では伝統的な学芸員スキル内容の教育が主流である。大学教育の範囲を博物館学以外にも広げたところ、美術史と考古学の専門性に優れた学部、さらに特定の一流大学のプレゼンスが高いことが確認できた。ミュージアムが大学に期待しているのはコレクション分野での高い専門性である。

今迄未知の部分であったミュージアムの内部研修の様子が判明した。入館後の訓練は各美術館によって行われるが、新人へのガイダンス的な研修がほとんどであり、その後 **On the Job** トレーニングやオプション研修が行われる事が多い。管理職研修では各管理職に応じたテイラーメイドの研修が行われる傾向にある。経営層研修は行われていないところもあるが、内容としてはケース・バイ・ケースなものとなっている。管理職以上の研修では、大学や第三者機関の力も借りている。第三者機関では Clore Leadership Program の認知度が高いが、英国博物館協会による CPD トレーニングは学芸員ではなく、学芸員にキャリアアップしたい管理系職員が受けていることが分かった。